

近江町埋蔵文化財調査集報 3

——町内遺跡発掘調査報告書——

2 0 0 1

滋 賀 県 坂 田 郡

近 江 町 教 育 委 員 会

序

近江町は、古代より近畿・東海・北陸を結ぶ交通の要衝とされ、滋賀県内においても、周知される埋蔵文化財包蔵地の多い町として知られています。

これら包蔵地上で実施される各種開発行為に対しては、『文化財保護法』に基づく調整協議をおこない、試掘調査・発掘調査等を実施しております。このうち個人住宅建設など営利を目的としない開発行為が原因となるものを対象として、経費の個人負担を軽減する目的で、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」を実施しております。

ここに報告いたしますのは、平成7年度より11年度までの5年間に実施された調査であり、いずれも小規模な調査であります。その調査で記録された資料は、近江町の歴史や文化を理解する上で、欠くことのできない公共の財産であります。

この報告が、地域史研究や埋蔵文化財保護への理解と認識を深めるために幾分でも寄与することができれば、幸いです。

末筆になりましたが、同事業にご協力いただきました関係諸氏・関係諸機関に厚く御礼申し上げます。

2001年（平成13年）3月

近江町教育委員会

教育長 北川 孫一

例 言

- 1, 本書は、国庫補助事業埋蔵文化財（近江町内遺跡）発掘調査の報告書であり、平成7年度より平成11年度までの5年間に実施した事業の報告にあたる。
- 2, この事業では、個人住宅建設等に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施する他、遺跡保護資料を作成する測量調査を補足的に実施している。
- 3, この報告書では、近江町に所在する埋蔵文化財包蔵地の周知と、町内遺跡調査の全容を示めすことを目的としている。また、平成12年度末までの調査によって、各遺跡の周知範囲についても幾分変更する必要が生じており、最新の分布地図を本書の中で付図として紹介した。
- 4, この調査の事業経費および各補助金は、以下のとおりである。なお、平成9年度および平成10年度については、詳細分布調査経費を除算した金額となっている。

	国庫補助金	県費補助金	町費負担金	計
平成7年度	500,000円	250,000円	250,000円	1,000,000円
平成8年度	500,000円	250,000円	250,000円	1,000,000円
平成9年度	500,000円	250,000円	250,000円	1,000,000円
平成10年度	500,000円	250,000円	250,000円	1,000,000円
平成11年度	500,000円	250,000円	250,000円	1,000,000円

- 5, 調査体制は下記のとおりである。

調査主体 近江町教育委員会 教育長 北川 孫一（平成7年度～平成12年度）
調査事務局 社会教育課長 世森 増信（平成7年度～平成11年度）
北村 惣一（平成12年度）
文化振興係長 宮崎 幹也（平成12年度より主査）
北川 久志（平成8年度～平成10年度）
調査補助員 谷口千夏（現・近江町はにわ館）・高橋元子
発掘作業員 廣瀬清左エ門、村岡勝次、北居憲治、吉居靖子、小原八重子、
粕淵早苗

- 6, 本書をまとめるにあたって、下記の方々から指導、助言を得た。記して謝意を表する次第である。

赤塚次郎、宇野茂樹、江谷 寛、円城伸彦、小笠原好彦、大橋信弥、粕淵宏昭、桂田峰男、
北原 治、近藤 滋、寿福 滋、高居芳美、高橋克壽、高橋順之、田中勝弘、土井一行、

中井 均、中川治美、中川通士、中村健二、林 博通、古野四郎、堀 大輔、南 孝雄、
森下章二、吉田秀則（五十音順、敬称略）

7, 基準点測量製図業務については、金城測量設計株式会社に委託して実施した。

8, 本書で使用した方位は、新平面直角座標系VIを基準としている。また標高はTP(東京湾平均海面高度)を用いた。

9, 本書の執筆・編集は、宮崎幹也が担当した。

目 次

第1章 近江町の遺跡	1
第2章 平成7年度～平成11年度の調査概要	5
第3章 町内遺跡の現況	12
第4章 ま と め	29

挿 図 目 次

第1図 調査地点位置図	3
第2図 長門寺遺跡第1次発掘調査・第2次発掘調査遺構平面図	4
第3図 奥松戸遺跡第3次発掘調査遺構平面図	6
第4図 碓遺跡範囲確認調査遺構平面図	8
第5図 高溝遺跡第3次発掘調査遺構平面図	10

図 版 目 次

図版 1 (上)	法勝寺遺跡第8次発掘調査現況
(下)	法勝寺遺跡第8次発掘調査検出遺構
図版 2 (上)	辻ノ前遺跡範囲確認調査現況
(下)	辻ノ前遺跡範囲確認調査検出遺構
図版 3 (上)	奥松戸遺跡第3次発掘調査調査風景
(下)	奥松戸遺跡第3次発掘調査調査風景
図版 4 (上)	奥松戸遺跡第3次発掘調査基準点測量
(下)	奥松戸遺跡第3次発掘調査検出遺構
図版 5 (上)	寺倉遺跡範囲確認調査検出遺構
(下)	黒田遺跡試掘調査(その4)調査トレンチ
図版 6 (上)	黒田遺跡試掘調査(その4)調査風景
(下)	黒田遺跡試掘調査(その4)検出遺構
図版 7 (上)	稗田遺跡試掘調査(その3)調査風景
(下)	稗田遺跡試掘調査(その3)検出遺構
図版 8 (上)	碓遺跡範囲確認調査調査風景
(下)	碓遺跡範囲確認調査検出遺構

第1章 近江町の遺跡

概 要

滋賀県坂田郡近江町は、琵琶湖の北東岸に位置し、南北7.2km・東西5.0km・総面積18.04km²の町域を有する小さな町である。町域の北部は長浜市、南部は米原町、東部は山東町とそれぞれ接している他、西部は琵琶湖に面している。2001年3月末現在、近江町には計108箇所の遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)が確認されており、これらの遺跡について、概要を次に紹介する。

旧石器時代・縄文時代

近江町内の遺跡から出土した最も古い遺物は、狐塚遺跡の「有舌尖頭器」であり、現在、近江町にはにわ館に常設展示されている。この遺物が旧石器時代に含まれるものか、縄文時代に含まれるものか明らかではないが、隣接する法勝寺遺跡(高溝)では、縄文時代早期の「高山寺式押型文土器」が広範囲に分布して出土しており、縄文時代早期の石器とみる向きもある。法勝寺遺跡の南側に隣接する高溝遺跡では、前期・中期・後期・晩期の遺物が出土しており、近江町教育委員会で保管されている。また浄蓮寺遺跡(顔戸)では、後期の土器棺墓が検出され、滋賀県教育委員会で保管されている。

弥生時代

前期の遺物は、碓遺跡(宇賀野)・法勝寺遺跡(高溝)・埋塚遺跡(顔戸)より出土している。これらの遺跡では、畿内系土器と東海系土器の共伴が認められるほか、縄文時代晩期の土器との共伴が認められる。

中期になると、宇賀野墓町遺跡(宇賀野)・長沢遺跡(長沢)・法勝寺遺跡(高溝)・黒田遺跡(顔戸)に遺跡の範囲は広がる。長沢遺跡では、木製品の製作加工に関連した資料が豊富に出土しており、この南側500mに位置する法勝寺遺跡では同時期の方形周溝墓群が確認されている。両遺跡の関係は、地域内における「居住区(長沢遺跡)」と「墓域(法勝寺遺跡)」を示すものと考えられ、西方の宇賀野墓町遺跡との間に広範囲な水田区域を広げていたものと推測される。

後期になると遺跡の数は爆発的に増加し、奥松戸遺跡(長沢)・法勝寺(高溝)・長門寺遺跡(顔戸)・埋塚遺跡(顔戸)・西円寺遺跡(西円寺)など、標高89m前後に5つの方形周溝墓群(墓域)が確認されている。これらは、現在の琵琶湖の水位より約5m高い位置にあたり、いずれの墓域も、沼沢地跡や小河川跡に接した位置で確認されている。

古墳時代

近江町の遺跡で、遺構と遺物が最も充実するのが、古墳時代前期（3世紀後半）である。遺構の中心となるのは、灌漑水利用の大溝遺構である。一級河川「天野川」の水を、現在の能登瀬周辺で右岸に分水し、横山丘陵の南端裾域を巡らせ、高溝・顔戸・長沢方面に行き渡らせている遺構が、町内各地で発見されている。このうち最上流にあたるのが稗田遺跡（顔戸）であり、双葉中学校のテニスコート増設工事に関連した第2次発掘調査で大溝遺構と道路遺構が発見されている。この大溝遺構は、さらに分岐し、北上するものは顔戸遺跡（顔戸）・高溝遺跡（高溝）・法勝寺遺跡（同）・狐塚遺跡（同）・碓遺跡（宇賀野）で検出された遺構へと続く。顔戸遺跡では、大溝に隣接して古墳時代前期の掘立柱建物が検出され、高溝遺跡では、小形儀鏡2面を含めた祭祀関連遺物が溝内部より出土した。また碓遺跡の大溝内からは、イヌガヤで制作された朱塗りの木製紡織器一対が発見されている。

分岐した後、西方へ伸びる遺構は、西ノ辻遺跡（顔戸）・埋塚遺跡（同）・黒田遺跡（同）へと通じた後、黒田遺跡内で北上し、碓遺跡に向かう。このうち黒田遺跡では、大溝に接する形で、水辺祭祀遺構と掘立柱建物が検出されている。

また墓制に関連する遺構としては、法勝寺遺跡の方形周溝墓群内に「前方後方形周溝墓」が出現した後、西円寺遺跡遺跡に独立した「円形低墳丘墓」が築造され、3世紀の様相が明らかにされていたが、近年、京都大学文学部考古学研究室が実施した測量調査によって、定納古墳（4世紀：前方後円墳2基）・甲塚古墳（5世紀前半：大形円墳）などの様相が明らかになり、塚の越古墳（新庄：前方後円墳）・狐塚古墳（高溝：帆立貝形古墳）・山津照神社古墳（能登瀬：前方後円墳）を始めとする6世紀の古墳に繋がる息長古墳群の全容が明らかにされ始めている。

歴史時代

白鳳期の寺院跡としては、正恩寺遺跡（飯）と法勝寺遺跡（高溝）の2遺跡が周知されている。前者の正恩寺遺跡は、地藏堂遺跡・普明庵遺跡と隣接し、「複合寺院跡」と理解されがちであるが、八幡神社を中心とする沖積低地に埋没した白鳳寺院であり、かなり地下深くに埋没している。正恩寺遺跡の出土軒丸瓦は、同じ天野川流域の山東町法泉寺遺跡・米原町三大寺遺跡と同範である。また後者の法勝寺遺跡は、10時期の複合遺跡であるが、平安時代中期に修復されている。

水田地割に関連する遺構として、近江町内には三種類の表層地割が存在する。第1の地割は、北方の長浜から伸びる「長浜平野の統一条里地割」。下層遺構としては、高溝遺跡・黒田遺跡・三田村屋敷遺跡（宇賀野）・碓遺跡から良好な畦畔遺構が検出され、西火打遺跡（長沢）では、水田管理に伴う建物群が確認されている。

第2の地割は、新庄集落の北側にひろがる「斜行地割」。下層遺構としては、地割の最西部に位置する埋塚遺跡から、主軸方位を同地割に揃えた奈良時代の大形建物群が発見されており、

「東大寺領坂田郡息長庄」に関連する遺構と推測されている。

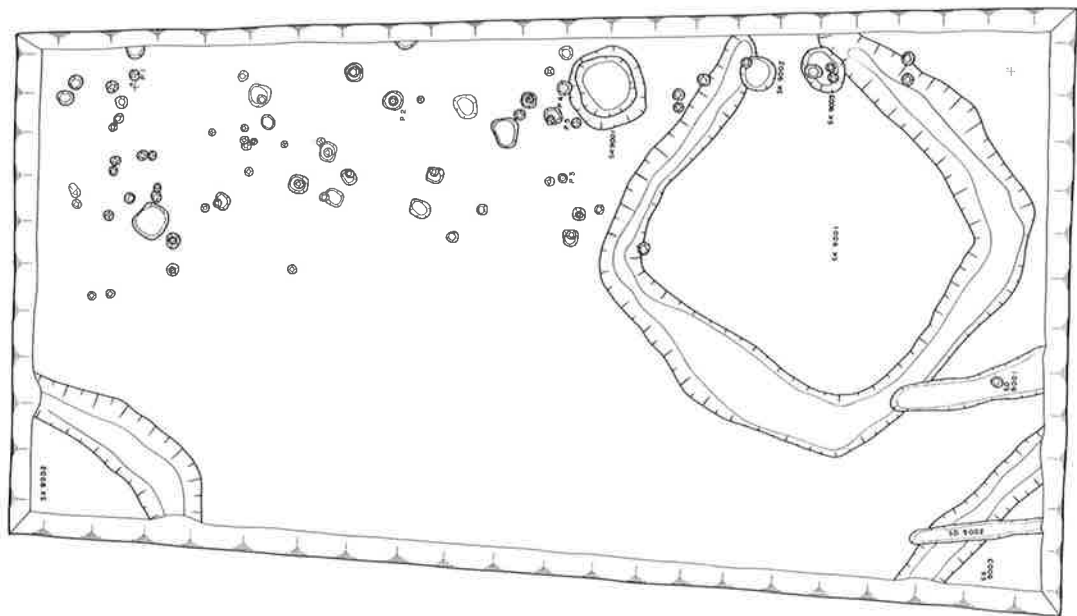
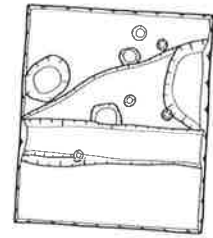
第3の地割は、法勝寺遺跡を中心にひろがる「南北地割」。下層遺構としては、水田畦畔・道路状遺構・区画水路をはじめ、平安時代後期の大形掘立柱建物群や井戸などが発見されており、「臨川寺領法勝寺郷」に関連する遺構と推測されている。

また中世の遺跡としては、新庄箕浦城遺跡・浄蓮寺遺跡・寺倉遺跡などの調査が実施されているものの、多くの中世遺跡が現存集落下に埋没しているため、実態の解明は進捗していない。



- | | |
|----------------|-----------------------|
| ①長門寺遺跡 第2次発掘調査 | ②辻ノ前遺跡 範囲確認調査 |
| ③奥松戸遺跡 第3次発掘調査 | ④法勝寺遺跡 第8次発掘調査に係る整理調査 |
| ⑤寺倉遺跡試掘調査(その3) | ⑥黒田遺跡試掘調査(その4) |
| ⑦碓遺跡範囲確認調査 | ⑧稗田遺跡試掘調査(その3) |
| ⑨高溝遺跡試掘調査(その1) | ⑩高溝遺跡第3次発掘調査 |

第1図 調査地点位置図 (S=1/50,000)



第2図 長門寺遺跡第1次発掘調査・第2次発掘調査遺構平面図 (S=1/200)

第2章 平成7年度～平成11年度の調査概要

平成7年度から平成11年度までの5年間、近江町内で実施された埋蔵文化財の調査は以下のとおりであり、その性格は、測量調査・立会調査・試掘調査・発掘調査に大別される。調査の大部分は、近江町教育委員会が調査機関となっており、社会教育課が担当した。

① 平成7年度の調査

平成7年度の調査は、1995年（平成7年）7月1日から1996年（平成8年）3月29日までの期間で実施した。長門寺遺跡第2次発掘調査を実施した他、辻ノ前遺跡周知範囲の東隣接地において範囲確認調査を実施した。

長門寺遺跡 第2次発掘調査

長門寺遺跡は、高溝遺跡・顔戸遺跡・正光寺遺跡とともに「顔戸遺跡群」を形成しており、その南端に位置する。顔戸遺跡群の特徴は、縄文時代前期に始まる集落遺跡が、古墳時代前期の灌漑事業によって農業生産区域を拡大させ、さらに長浜平野の統一条里を普及させた地域にあたる。

同遺跡の南側には、1989年（平成元年度）の広範囲な試掘調査によって沼沢地のひろがり確認されている。沼沢地の北縁部にあたる長門寺遺跡では、1990年（平成2年度）に実施した第1次調査において、弥生時代後期の方形周溝墓3基と、中世の土壌が発見されていた。このうち方形周溝墓からは、胴部の張り出した壺、受口状口縁の甕、手焙り型土器などを出土し、当地域における弥生時代後期の土器様相を明らかにした。

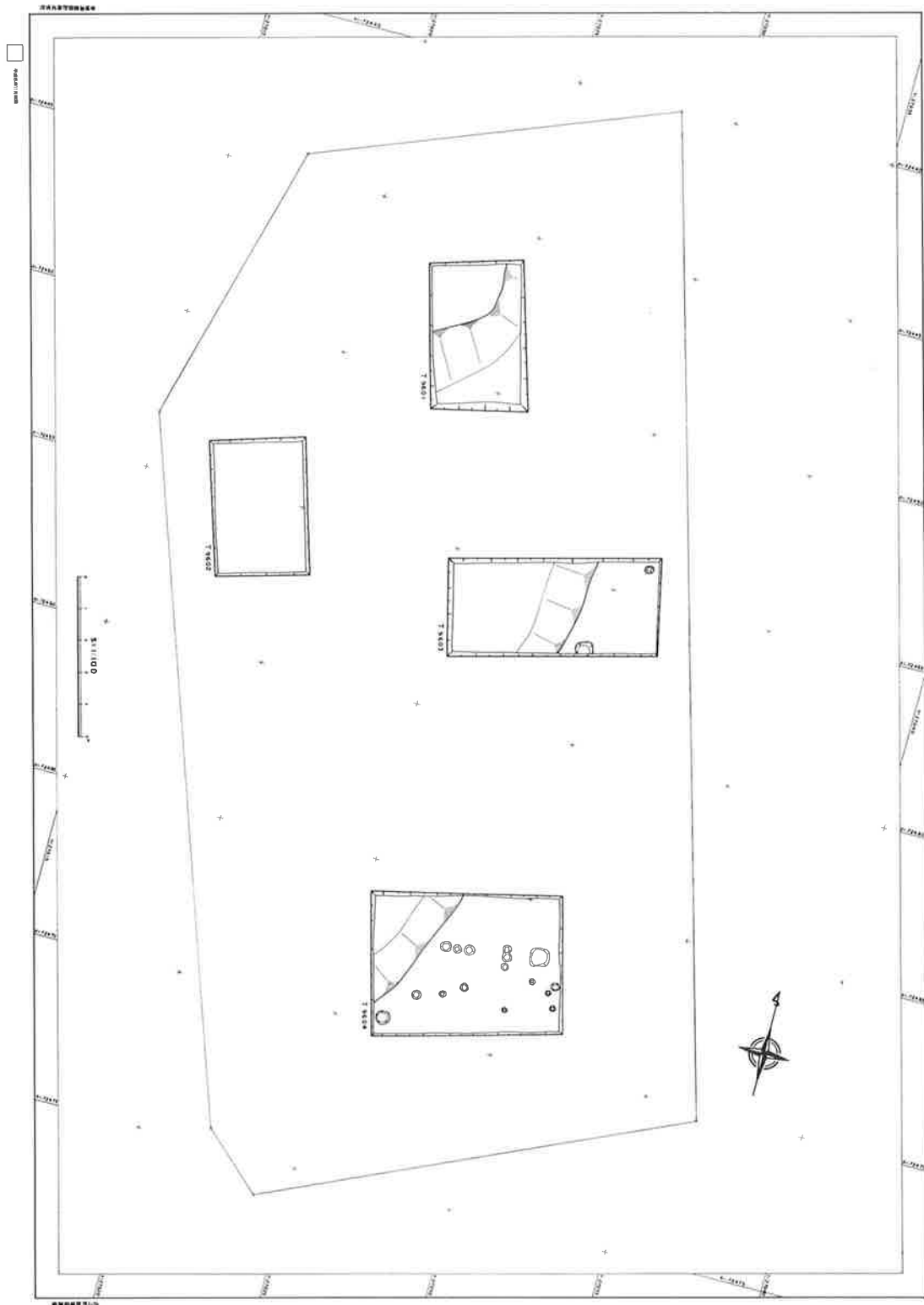
第2次発掘調査では、弥生時代の方形周溝墓は発見されず、かわって古墳時代の溝が検出された。この遺構は、出土した須恵器から6世紀後半代のもものと推測される。同一年代の資料については、長門寺遺跡の北東100mに位置する亀塚遺跡（現在の近江町立中央公民館）からも発見されており、今後、古墳時代の遺構の広がりも考慮に入れる必要が生じた。

辻ノ前遺跡 範囲確認調査

辻ノ前遺跡は、長門寺遺跡の南東100mに位置しており、これまでの試掘調査によって沼沢地の東縁部にあたると推測されている。辻ノ前遺跡は、古墳時代前期の遺物散布地として周知されており、古墳時代前期の遺物が出土しているものの、遺構については検出されていない。

今回の調査は、周知範囲の東外側において実施した。調査では、柱穴状の遺構が確認されたものの、遺物の出土が認められず、性格についても不明であった。

今回の調査から、辻ノ前遺跡については、現状の周知範囲が妥当なものと判断された。



第3図 奥松戸遺跡第3次発掘調査遺構平面図 (S=1/200)

② 平成8年度の調査

平成8年度の調査は、1996年（平成8年）7月1日から1997年（平成9年）3月31日までの期間で実施した。奥松戸遺跡第3次発掘調査を実施した他、法勝寺遺跡第8次発掘調査の整理調査を実施した。

奥松戸遺跡 第3次発掘調査

奥松戸遺跡は、一般国道8号（長浜バイパス）が、一級河川土川と交差する、長沢字奥松戸地先に所在し、これまでに2度にわたる発掘調査が実施されている。

第1次発掘調査は、一般国道8号（長浜バイパス）に関連するもので、滋賀県教育委員会と（財）滋賀県文化財保護協会が実施し、弥生時代後期の墓域、古墳時代後期の集落遺構、平安時代後期の区画溝などが発見されている。また第2次発掘調査は、県営かんがい排水事業に関連して、近江町教育委員会が実施し、前調査同様の遺構を検出し、東西300m以上の規模をもつ複合遺跡であることを明らかにした。また、今回の第3次発掘調査では、小河川状の遺構と、建物を構成する柱穴遺構が確認された。

法勝寺遺跡 第8次発掘調査に係る整理調査

法勝寺遺跡に関連する調査は、平成13年3月末現在で、第9次発掘調査までが実施されている。この遺跡では、「前方後方形周溝墓遺構保存地区」と「白鳳寺院跡遺構保存地区」からなる2箇所の遺跡保存地区が存在しており、それぞれ前者は「水田」、後者は「畑地」として、地下遺構が保存されている。

第8次発掘調査は、「白鳳寺院跡遺構保存地区」内において、1995年（平成6年度）に実施したもので、その際に出土した遺物の洗浄・注記作業を中心におこなった。この調査は、遺構保存地区内の北端部で実施したもので、多量の遺物を出土しながら、明確な遺構は検出されていない。

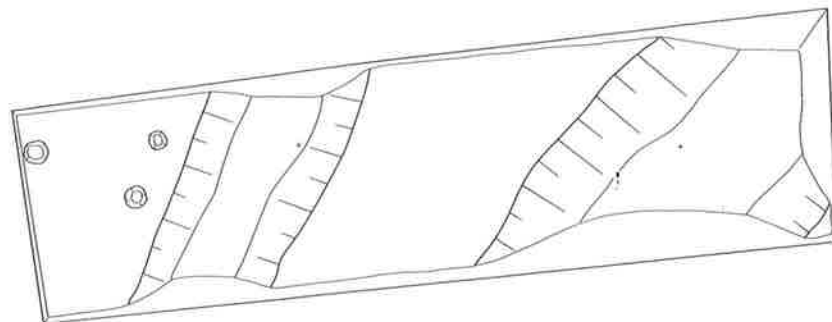
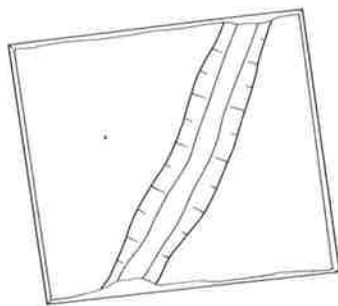
③ 平成9年度の調査

平成9年度の調査は、1997年（平成9年）7月1日から1998年（平成10年）3月31日までの期間で実施した。寺倉遺跡試掘調査（その3）と、黒田遺跡試掘調査（その4）を実施した。

寺倉遺跡試掘調査（その3）

寺倉遺跡は、一級河川「天野川」の左岸域、国道21号線に面した近江町寺倉地先に所在する古墳時代と中世の複合遺跡である。寺倉遺跡については、これまでに3度にわたる試掘調査と、1回の発掘調査の経緯がある。

碓遺跡（試掘）平面図 S=1:100



図面名	碓遺跡
図面内容	(試掘)平面図
縮尺	1:100

碓遺跡

第4図 碓遺跡範囲確認調査遺構平面図 (S=1/200)

試掘調査（その1）は、1989年（平成元年）6月に民間開発に伴って実施され、埋没古墳の残骸が確認された。寺倉の集落以南は、国道21号を挟んで地頭山の丘陵裾に至っているが、この丘陵北斜面の裾部に築造された6世紀中葉の古墳が、国道の建設時に破壊され、その残骸が試掘調査で検出された。遺構は小形円墳の周濠で、内部から円筒埴輪片が出土した。

試掘調査（その2）は、1989年（平成元年）11月に県営ほ場整備に伴い、滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会によって実施された。集落の周辺部に対し、極めの細かい試掘調査を実施し、集落南西端に中世前半期の遺構が広がることを明らかにした。

第1次発掘調査は、試掘調査（その2）を受けて実施したもので、滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会が担当した。この朝妻街道に面した中世前期集落の調査成果については、『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XVIII-4』（滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会1991年）に詳しい。

今回実施した試掘調査（その2）では、古墳に関連する遺構も、中世集落に関連する遺構も確認されなかった。

黒田遺跡試掘調査（その4）

黒田遺跡は、顔戸・箕浦・飯の3集落の接点に位置する縄文時代晩期・弥生時代中期・古墳時代前期・平安時代の複合遺跡である。これまでには、3回にわたる試掘調査と、4次におよぶ発掘調査が実施され、遺跡の実態がかなり明らかになっている。

今回の試掘調査では、これまで黒田遺跡の西側の広がりが見出された。黒田遺跡は、遺構面を構成する基盤土が、安定した粘土層の箇所と、氾濫砂礫の箇所で構成されており、極めて追跡の困難な遺跡でもある。第3次発掘調査で確認された古墳時代前期の大溝遺構は、第2次発掘調査区、第1次発掘調査区における検出遺構につながり、当該試掘調査区に出現するものと予測されていたが、検出されず、北折して現存の町道域を伸び、碓遺跡方面に伸びることが明らかとなった。

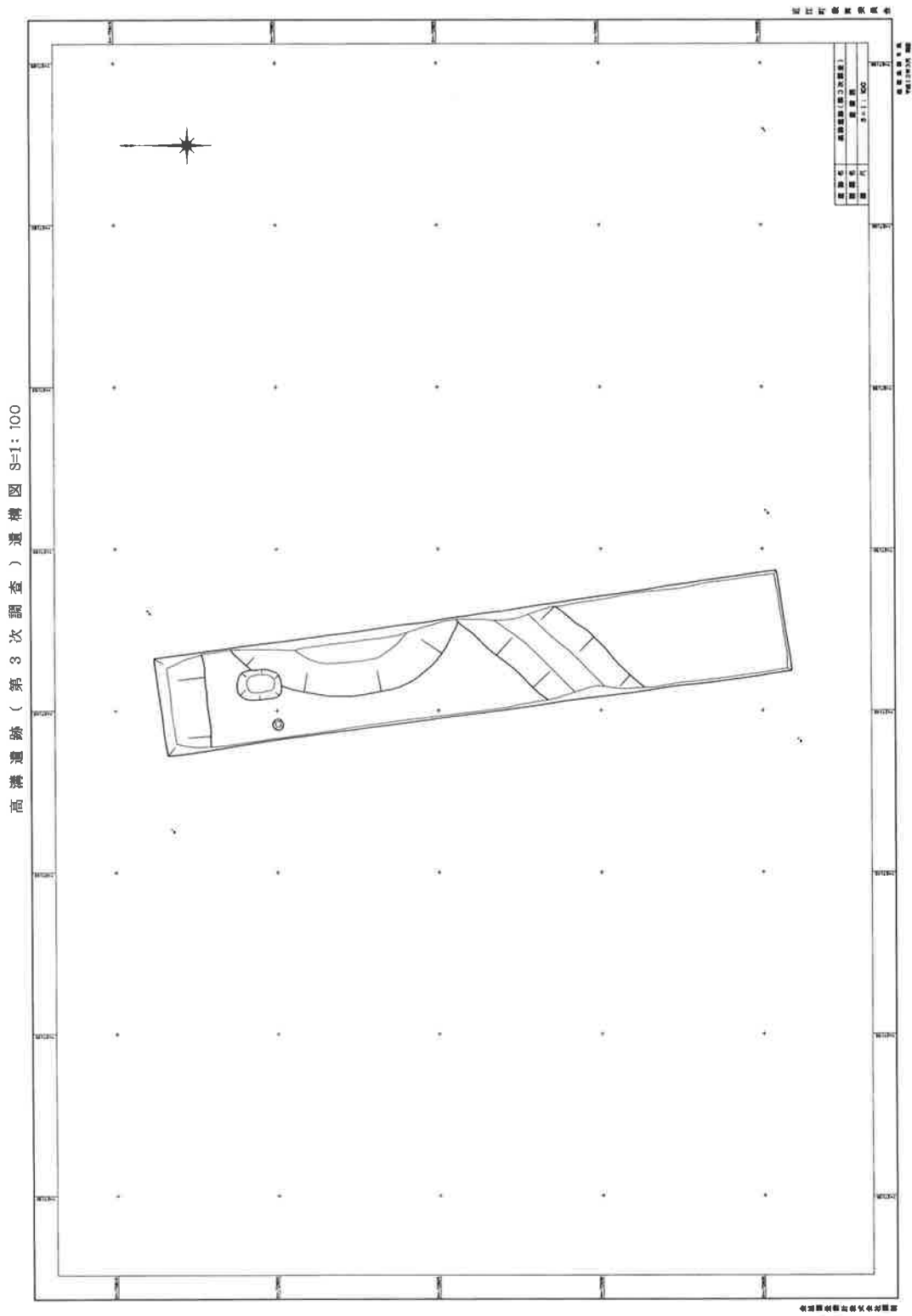
④ 平成10年度の調査

平成10年度の調査は、1998年（平成10年）6月1日から1999年（平成11年）3月31日までの期間で実施した。碓遺跡の周知範囲南側において範囲確認調査を実施した。

碓遺跡範囲確認調査

碓遺跡は、宇賀野に所在する。同遺跡では、2001年（平成13年）3月末現在で、3次のおよぶ発掘調査が実施されており、弥生時代前期・古墳時代前期～後期・奈良時代の複合遺跡であることが周知されている。

遺跡の北西部を対象とした第1次発掘調査では、古墳時代前期の集落遺構と、奈良時代の掘



第5図 高溝遺跡第3次発掘調査遺構平面図 (S=1/200)

立柱建物が検出され、北東部を対象とした第2次発掘調査では、古墳時代後期の集落遺構と、奈良時代の集落遺構が確認されている。

従来、この遺跡の北限は一級河川「土川」に示され、南限は「琵琶田川」にあると考えられてきたが、近年の範囲確認調査によって、琵琶田川以南においても遺構の広がりが確認されはじめ、今回の範囲確認調査によって遺跡の南限を確定することとなった。

今回の範囲確認調査では、古墳時代前期の溝状遺構と、古墳時代後期の溝状遺構が発見され、それぞれ土師器および須恵器が出土した。

⑤ 平成11年度の調査

平成11年度の調査は、1999年（平成11年）6月1日から2000年（平成12年）3月31日までの期間で実施した。稗田遺跡試掘調査（その3）、高溝遺跡試掘調査（その1）、および高溝遺跡第3次発掘調査を実施した。

稗田遺跡試掘調査（その3）

稗田（ひえだ）遺跡は、顔戸字稗田（へいでん）に所在する古墳時代前期の遺跡である。1989年（平成元年）、県営ほ場整備に関連して稗田遺跡の1帯には、詳細な試掘調査が実施された。この試掘調査では、ごく限られた箇所においてのみ、古墳時代前期の遺物出土が認められた。また1994年（平成5年）に双葉中学校のテニスコート増設工事に関連して実施した試掘調査（その2）では、遺跡の西側へのひろがり確認されたため、第1次発掘調査へと引き継がれ、古墳時代前期の大溝と道路状遺構が検出されるに至った。

今回の試掘調査地点は、過去の調査によって存在の確認された古墳時代前期の大溝遺構の南側隣接地にあたり、年代不明の柱穴等が発見されたものの、明確な遺構は検出されず、遺物の出土も認められなかった。

高溝遺跡試掘調査（その1）

高溝遺跡は、高溝集落の西側水田地帯にひろがる縄文時代～平安時代の複合集落遺跡である。同遺跡は、縄文時代前期・中期・後期・晩期へと続く長期的な集落遺構であり、後の古墳時代前期には、人工的な大溝遺構が構築される。これらの遺構は、平安時代後期になってようやく普及した長浜平野統一条里の土木工事によって、削平され、埋設された。

高溝遺跡の特徴は、統一条里を示す表層条里の地下に、大規模な畦畔遺構を残すことにあり、同時に古墳時代前期の大溝遺構が条里制の普及によって埋めつくされている点にある。この古墳時代前期の大溝遺構では、最下層から古墳時代前期の土器を出土し、中層には周辺地の縄文土器や円筒埴輪片を包含し、最上面から平安時代後期の山茶碗片を出土することが多く、条里制普及の土木作業を知る好資料となっている。

高溝遺跡第3次発掘調査

高溝遺跡の北西端部において第3次発掘調査を実施した。高溝遺跡の最北端は、隣接する法勝寺遺跡の最南端と接しており、白鳳寺院の築地塀正面に古墳時代前期の遺構を留めている。

第3章 町内遺跡の現況

1990年（平成2年）に開始した町内遺跡発掘調査事業は、2000年（平成12）で10年を迎えた、この間に実施した各種の立会調査・試掘調査・範囲確認調査・発掘調査から、町内遺跡の全容は少しずつ明らかになっている。この中には、従来より想定されていた「範囲」や「性格」に変更を要するものも増加したため、当報告書において『付図：近江町遺跡地図』を示し、より正確な遺跡範囲を示すこととした。ここでは、個々の遺跡について概要を紹介する。

1 多和田哨砦遺跡

タワダショウトリデイセキ 多和田

種別：城跡 時代：中世 立地：山頂 現状：林

概要：南北2箇所に分かれて所在する中世城郭遺構。

2 多和田城遺跡

タワダジョウイセキ 多和田

種別：城跡 時代：その他 立地：山頂・山腹 現状：山林

概要：中世城郭遺構。詳細は不明。

3 醒井神籠石様列石遺跡

サメガイコウゴイシヨウレッセキイセキ 多和田

種別：石塁 時代：その他 立地：山頂 現状：山林

概要：明治時代より存在の知られる遺跡。米原町との町境に所在する。

4 聖谷遺跡

ヒジリダニイセキ 多和田

種別：寺院跡 時代：その他 立地：山頂 現状：山林

概要：南北90m・東西70m規模の寺院跡。詳細は不明。

5 安能寺遺跡

アンノウジイセキ 能登瀬

種別：寺院跡 時代：鎌倉 立地：丘陵 現状：山林

概要：南北50m・東西70m規模の寺院跡。詳細は不明。

6 岩井遺跡

イワイイセキ 能登瀬

種別：散布地 時代：縄文・弥生 立地：平地 現状：水田

概要：南北100m・東西200m規模の遺物散布地。

7 宮ノ前北遺跡

ミヤノマエキタイセキ 能登瀬

種別：散布地 時代：中世 立地：山麓 現状：水田

概要：南北30m・東西30m規模の中世遺物散布地。

8 青木館遺跡

アオキヤカタイセキ 能登瀬

種別：館跡 時代：中世 立地：山腹 現状：宅地・寺地

概要：南北30m・東西40m規模の中世城郭関連遺跡。既存宅地と寺地で構成されており、詳細は不明。

9 中村屋敷遺跡

ナカムラヤシキイセキ 能登瀬

種別：館跡 時代：中世 立地：平地 現状：宅地

概要：南北50m・東西100m規模の中世城郭関連遺跡。既存宅地で構成されており、詳細は不明。

10 能登瀬遺跡

ノトセイセキ 能登瀬

種別：製鉄跡 時代：その他 立地：丘陵 現状：山林

概要：南北20m・東西15m規模の製鉄遺跡。

11 能登瀬城遺跡

ノトセジョウイセキ 能登瀬

種別：城跡 時代：中世 立地：平地 現状：宅地

概要：南北120m・東西150m規模の中世城郭関連遺跡。既存宅地で構成されており、詳細は不明。

12 奥深古墳群

オクバコフングン 能登瀬

種別：古墳群 時代：古墳 立地：丘陵 現状：山林

概要：南北500m・東西50m範囲にひろがる古墳群。丘陵上に6基の円墳から構成される。

13 百如庵遺跡

ヒャクニョアンイセキ 能登瀬

種別：寺院跡 時代：江戸 立地：丘陵 現状：寺地

概要：南北20m・東西20m規模の寺院跡。

14 善性寺遺跡

ゼンショウジイセキ 能登瀬

種別：寺院跡 時代：その他 立地：丘陵 現状：山林

概要：南北20m・東西30m規模の寺院跡。

15 県史跡山津照神社古墳

ケンシセキヤマツテルジンジャコフン 能登瀬

種別：古墳 時代：古墳 立地：丘陵 現状：杜地

概要：全長46.2m・後円部径26.4m・前方部幅39.6m規模の前方後円墳。

16 宮ノ前遺跡

ミヤノマエイセキ 能登瀬

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：畑地・水田

概要：南北100m・東西280m規模の平安時代寺院関連遺跡。第1次～第3次発掘調査が実施されている。

17 日光寺砦遺跡

ニッコウジトリデイセキ 日光寺

種別：城跡 時代：中世 立地：平地 現状：林

概要：南北50m・東西20mの城郭関連遺跡。詳細は不明。

18 日光寺山砦遺跡

ニッコウジヤマトリダイセキ 日光寺

種別：城跡 時代：中世 立地：山麓 現状：林

概要：南北100m・東西60m規模の城郭関連遺跡。詳細は不明。

19 定納古墳群

ジョウノウコフンゲン 日光寺

種別：古墳群 時代：古墳 立地：丘陵 現状：山林

概要：1号墳（前方後円墳）・2号墳（円墳）・3号墳（方墳）・4号墳（方墳）・5号墳（前方後円墳）・6号墳（前方後円墳：消滅）・7号墳（円墳：消滅）で構成される。4世紀代の古墳と推定されている。

20 大林寺遺跡

ダイリンジイセキ 日光寺

種別：寺院跡 時代：その他 立地：山麓 現状：宅地・山林

概要：一部が現存の集落に重なる寺院関連遺跡。詳細は不明。

21 日光寺遺跡

ニッコウジイセキ 日光寺

種別：散布地・寺院跡 時代：その他 立地：山麓 現状：寺地

概要：一部が現存の集落に重なる寺院関連遺跡。詳細は不明。

22 寺倉遺跡

テラクライセキ 寺倉

種別：集落跡 時代：中世 立地：平地 現状：宅地・水田

概要：南北200m・東西400m規模の複合遺跡。6世紀中葉の埋没古墳と、朝妻街道に面した中世前期の集落遺跡から構成される。

23 天皇谷遺跡

テンノウダニイセキ 寺倉

種別：散布地 時代：その他 立地：山麓 現状：山林

概要：南北120m・東西150m規模の遺物散布地。石垣が残る。

24 地頭山城遺跡

ジトウヤマジョウイセキ 寺倉

種別：城跡 時代：中世 立地：山頂 現状：山林

概要：南北300m・東西80m規模の中世城郭遺跡。米原町との町境に位置し、豎堀・堀切を残す。

25 総寧寺館遺跡

ソウネイジヤカタイセキ 寺倉

種別：城跡 時代：その他 立地：山麓 現状：寺地・山林

概要：南北50m・東西250m規模の中世城郭遺跡。土塁を残す。

26 塚の越古墳

ツカノコシコフン 新庄

種別：古墳 時代：古墳 立地：平地 現状：山林・水田

概要：全長約46mを測る6世紀初頭の前方後円墳。裾部に石見型盾形埴輪を巡らせる。葺石を持ち、周濠を巡らせる。

27 塚の越砦遺跡

ツカノコシトリデイセキ 新庄

種別：城跡 時代：その他 立地：平地 現状：山林

概要：中世城郭関連遺跡。調査完了。

28 大正寺遺跡

タイショウジイセキ 新庄

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：道路

概要：南北200m・東西80m規模の寺院関連遺跡。日撫神社別当寺とされる。

29 新庄箕浦城遺跡

シンジョウミノウラジョウイセキ 新庄・箕浦

種別：城跡 時代：その他 立地：平地 現状：水田・畑地・宅地

概要：南北120m・東西200m規模の中世城郭遺跡。今井氏の本城。1989年（平成元年）に第1次発掘調査が実施され、堀や掘立柱建物等が確認されている。

30 新庄遺跡

シンジョウイセキ 新庄

種別：集落跡 時代：鎌倉～江戸 立地：平地 現状：水田・宅地

概要：南北60m・東西80m規模の複合集落遺跡。須恵器・土師器・石製硯等が出土している。

31 井戸村館遺跡

イドムラヤカタイセキ 箕浦

種別：館跡 時代：中世 立地：平地 現状：宅地

概要：南北50m・東西80m規模の中世城郭遺跡。既存宅地で構成されている。

32 今井屋敷遺跡

イマイヤシキイセキ 箕浦

種別：城跡 時代：その他 立地：平地 現状：畑地

概要：南北80m・東西80m規模の中世城郭遺跡。2000年（平成12年）に実施した試掘調査で遺構の広がりが確認されている。

33 箕浦市場遺跡

ミノウライチバイセキ 箕浦

種別：その他 時代：その他 立地：平地 現状：宅地

概要：南北40m・東西40m規模の遺跡。詳細は不明。

34 誓願寺遺跡

セイガンジイセキ 箕浦

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：宅地

概要：南北70m・東西70m規模の中世寺院関連遺跡。

35 埋塚遺跡

ウメヅカイセキ 箕浦・顔戸

種別：集落跡・古墳 時代：弥生・古墳・奈良 立地：平地 現状：水田

概要：南北150m・東西120m規模の複合遺跡。第1次～第2次発掘調査が実施され、弥生時代後期の方形周溝墓、古墳、奈良時代の大形建物群で構成される。

36 西円寺砦遺跡

サイエンジトリデイセキ 西円寺

種別：城跡 時代：中世 立地：山頂 現状：林

概要：南北150m・東西60m規模の中世城郭遺跡。

37 太尾山城遺跡

フトオヤマジョウイセキ 西円寺

種別：城跡 時代：中世 立地：山頂 現状：山林

概要：米原町との町境に位置し、削平地・土塁・堀切が残る。

38 西円寺遺跡

サイエンジイセキ 西円寺

種別：集落跡 時代：弥生～中世 立地：平地 現状：水田・畑地・宅地

概要：第1次・第2次発掘調査が実施され、弥生時代の環濠集落・古墳時代の円形低墳丘墓・平安時代後期の集落遺構などが存在する。

39 神塚古墳

カミヅカコフン 西円寺

種別：古墳 時代：古墳 立地：丘陵 現状：山林

概要：円墳。詳細は不明。2001年に試掘調査が実施されている。

40 西円寺館遺跡

サイエンジヤカタイセキ 西円寺

種別：城跡 時代：その他 立地：山腹 現状：山林

概要：南北70m・東西70m規模の中世城郭遺跡。

41 黒堂遺跡

クロドウイセキ 西円寺

種別：窯跡 時代：奈良 立地：山腹 現状：山林

概要：須恵器生産の窯業遺跡。

42 岩脇遺跡

イオギイセキ 岩脇

種別：集落跡 時代：飛鳥～平安 立地：平地 現状：宅地・水田・社地

概要：南北250m・東西250m規模の複合遺跡。第1次発掘調査が実施され、奈良時代の遺構が確認されている。

43 岩谷遺跡

イワタニイセキ 岩脇

種別：古墳・城跡・窯跡 時代：古墳・江戸 立地：山腹・山頂 現状：山林

概要：山頂に古墳と城跡、山腹に窯跡（米原町）が所在。関西電力の送電塔建設に先立ち試掘調査を実施している。

44 護寧寺遺跡

ゴネイジイセキ 岩脇

種別：寺院跡 時代：その他 立地：山麓 現状：山林

概要：南北100m・東西120m規模の寺院跡。詳細は不明。

45 舟崎山古墳群

フナサキヤマコフングン 舟崎

種別：古墳群・散布地 時代：縄文・古墳 立地：丘陵 現状：山林

概要：長浜市との市町境に位置する南北500m・東西50m規模の古墳群。縄文時代の遺物散布地と中後期古墳群から構成される。

46 舟崎遺跡

フナサキヤイセキ 舟崎

種別：経塚 時代：その他 立地：丘陵 現状：山林

概要：陶製経筒が出土している。

47 法勝寺遺跡

ハウショウジイセキ 高溝

種別：集落跡・寺院跡・荘園跡 時代：縄文～中世 立地：平地 現状：水田

概要：南北480m・東西450m規模をもつ、10時期に区分される複合遺跡。第1次～第9次発掘調査が実施されている。遺跡保存地区2箇所（前方後方形周溝墓・寺院跡）を含む。

48 狐塚遺跡

キツネヅカイセキ 高溝

種別：集落跡・古墳・荘園跡 時代：縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世

立地：平地 現状：水田・宅地

概要：南北300m・東西300m規模の複合遺跡。第1次～第4次発掘調査が実施されており、5基の古墳が確認されている。1号墳～4号墳（円墳）、5号墳（帆立貝形古墳）。

49 高溝遺跡

タカミゾイセキ 高溝

種別：集落跡 時代：縄文・弥生・古墳・平安 立地：平地 現状：水田・宅地

概要：南北450m・東西300m規模の複合遺跡。第1次～第3次発掘調査が実施されている。

50 一本木遺跡

イッポンギイセキ 顔戸

種別：散布地 時代：縄文～平安 立地：平地 現状：宅地・畑地

概要：南北150m・東西100m規模の遺物散布地。詳細は不明。

51 亀塚遺跡

カメヅカイセキ 顔戸

種別：古墳・散布地 時代：古墳・奈良 立地：平地 現状：公民館

概要：古墳は既に消滅している。

52 笹塚遺跡

ササヅカイセキ 顔戸

種別：古墳 時代：古墳 立地：平地 現状：畑地

概要：須恵器の出土する古墳伝承地。詳細は不明。

53 山ノ前遺跡

ヤマノマエイセキ 顔戸

種別：散布地 時代：縄文 立地：山麓 現状：山林

概要：石斧が出土する遺物散布地。詳細は不明。

54 神郷遺跡

ジンゴウイセキ 顔戸

種別：散布地 時代：その他 立地：山麓 現状：池・山林

概要：遺物散布地であるが、詳細は不明。木柱の出土例がある。

55 池野屋敷遺跡

イケノヤシキイセキ 顔戸

種別：館跡 時代：その他 立地：山麓 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。近年まで土塁が残されていたが、現在は消滅している。

56 辻ノ前遺跡

ツジノマエイセキ 顔戸

種別：散布地 時代：古墳～平安 立地：平地 現状：水田

概要：古墳時代前期と平安時代の遺物散布地。

57 田中屋敷遺跡

タナカヤシキイセキ 顔戸

種別：館跡 時代：その他 立地：平地 現状：林

概要：中世城郭関連遺跡。

58 不明庵遺跡

フミョウアンイセキ 顔戸

種別：寺院跡 時代：その他 立地：山腹 現状：山林

概要：中世寺院関連遺跡。

59 鳴子塚古墳

ナルコヅカコフン 顔戸

種別：古墳 時代：古墳 立地：平地 現状：畑地

概要：古墳伝承地。

60 靱井屋敷遺跡

モミイヤシキイセキ 顔戸

種別：館跡 時代：中世 立地：平地 現状：宅地・林

概要：中世城郭関連遺跡。

61 浄蓮寺遺跡

ジョウレンジイセキ 顔戸

種別：集落跡・寺院跡 時代：縄文・奈良・中世 立地：平地 現状：水田

概要：複合遺跡。第1次～第3次発掘調査が実施されている。

62 安養寺遺跡

アンヨウジイセキ 顔戸

種別：散布地・寺院跡 時代：中世 立地：山麓 現状：水田

概要：石斧の出土事例があり、礎石が発見されている複合遺跡。

63 顔戸遺跡

ゴウドイセキ 顔戸

種別：集落跡 時代：縄文～古墳 立地：平地 現状：水田・宅地

概要：第1次・第2次発掘調査が実施され、古墳時代前期の集落遺構をはじめとした複合遺跡の様相が明らかとなっている。

64 正光寺遺跡

ショウコウジイセキ 顔戸

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：水田・宅地・公民館

概要：字名を残す寺院関連遺跡。

65 長門寺遺跡

チョウモンジイセキ 顔戸

種別：集落跡・寺院跡 時代：弥生・古墳・中世 立地：平地 現状：水田・宅地

概要：第1次・第2次発掘調査が実施され、弥生時代後期の方形周溝墓、古墳時代集落跡と中世の遺構が確認されている。

66 人塚山古墳

ヒトツカヤマコフン 顔戸

種別：古墳 時代：古墳 立地：山麓 現状：山林

概要：岩盤の上に構築された後期古墳。須恵器の出土例がある。

67 日撫山古墳

ヒナデヤマコフン 顔戸

種別：古墳 時代：古墳 立地：丘陵 現状：山林

概要：丘陵尾根部に立地する長方形墳。須恵器の出土が伝えられている。

68 仏光寺遺跡

ブッコウジイセキ 顔戸

種別：寺院跡 時代：その他 立地：山麓 現状：山林

概要：日撫神社別当寺とされる寺院伝承地。

69 円光寺遺跡

エンコウジイセキ 顔戸

種別：寺院跡 時代：その他 立地：山腹 現状：山林
概要：日撫神社別当寺とされる寺院伝承地。

70 勝正寺遺跡

ショウセイジジイセキ 顔戸

種別：寺院跡 時代：その他 立地：山麓 現状：山林
概要：日撫神社別当寺とされる寺院伝承地。

71 後別当古墳

ゴベットウコフン 顔戸

種別：古墳 時代：古墳 立地：丘陵 現状：山林
概要：丘陵尾根に立地する帆立貝形古墳。埴輪の出土を見る。

72 大正寺古墳

タイショウジコフン 顔戸

種別：古墳 時代：古墳 立地：丘陵 現状：山林
概要：丘陵尾根に立地する円墳。

73 黄牛塚古墳

オギユウヅカコフン 顔戸

種別：古墳 時代：古墳 立地：山腹 現状：山林
概要：横穴式石室を持つ円墳。消滅しており、現在は北陸自動車道となっている。

74 顔戸山砦遺跡

ゴウドヤマトリデイセキ 顔戸

種別：古墳・城跡 時代：古墳・中世 立地：山頂 現状：山林
概要：頂部の古墳を中心として、砦遺構が築かれている。円筒埴輪・中世陶器・茶臼などが出土している。

75 院内遺跡

インナイイセキ 顔戸

種別：製鉄跡 時代：江戸 立地：山腹 現状：山林
概要：江戸時代の小鍛冶遺跡。鉄滓の散布が認められる。

76 稗田遺跡

ヒエダイセキ 顔戸

種別：散布地 時代：古墳 立地：平地 現状：水田・宅地・中学校

概要：3度の試掘調査と第1次発掘調査によって、古墳時代前期の大溝遺構と道路状遺構が検出されている。

77 アミタビ遺跡

アミタビイセキ 顔戸

種別：祭祀跡 時代：その他 立地：山頂 現状：山林

概要：近世の雨乞祭祀遺跡。中央部は、古墳と推定されている。

78 黒田遺跡

クロダイセキ 顔戸・箕浦

種別：集落跡 時代：縄文～平安 立地：平地 現状：水田・店舗・道路

概要：4度の試掘調査と、第1次～第4次発掘調査によって縄文時代晩期・弥生時代中期・古墳時代前期・平安時代の集落遺構が確認されている。なかでも古墳時代前期の遺構には、大溝遺構・祭祀土壇・掘立柱建物などがある。

79 甲塚古墳

カブトヅカコフン 顔戸・日光寺

種別：古墳 時代：古墳 立地：丘陵 現状：山林

概要：葺石をもつ大形円墳（1号墳）と、方墳（2号墳）から構成される。5世紀前半代のものと推定される。

80 長沢城遺跡

ナガサワジョウイセキ 長沢

種別：城跡 時代：その他 立地：平地 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。

81 福田寺遺跡

フクデンジイセキ 長沢

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：寺地

概要：寺院関連遺跡。

82 長沢関跡

ナガサワセキアト 長沢

種別：関跡 時代：その他 立地：平地 現状：畑地

概要：「御陣屋」とよばれる関所遺跡。

83 長沢遺跡

ナガサワイセキ 長沢

種別：集落跡 時代：弥生～平安 立地：平地 現状：水田

概要：南接する法勝寺遺跡（墓域）と関連する弥生時代の集落遺跡。

84 西火打遺跡

ニシヒウチイセキ 長沢

種別：集落跡 時代：平安 立地：平地 現状：水田・畑地

概要：統一条里の管理建物（掘立柱建物）が確認されている。

85 奥松戸遺跡

オクマツドイセキ 長沢

種別：集落跡・寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：水田・竹林

概要：第1次・第2次発掘調査によって、弥生時代と平安時代の集落遺構が確認されている。

周知範囲の西部は「寺院推定地」とされ、堀の存在が確認されている。

86 北松戸遺跡

キタマツドイセキ 長沢

種別：散布地 時代：その他 立地：平地 現状：水田・畑地

概要：須恵器の出土がみられる遺物散布地。詳細は不明。

87 土川湖底遺跡

ツチカワコテイイセキ 長沢・宇賀野

種別：集落跡 時代：縄文～鎌倉 立地：湖底・平地 現状：湖・水田

概要：琵琶湖の湖水期に、縄文土器・須恵器・山茶碗の出土が認められている。

88 宇賀野館遺跡

ウカノヤカタイセキ 宇賀野

種別：城跡 時代：その他 立地：平地 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。

89 遠藤屋敷遺跡

エンドウヤシキイセキ 宇賀野

種別：城跡 時代：中世 立地：平地 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。

90 三田村屋敷遺跡

ミタムラヤシキイセキ 宇賀野

種別：城跡 時代：中世 立地：平地 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。2000年（平成12年）に試掘調査が実施され、条里制の畦畔遺構が確認されている。

91 大王寺遺跡

ダイオウジイセキ 宇賀野

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：造成地

概要：字名の残る寺院推定地。試掘調査によって縄文時代の火山灰が確認されている。

92 碓遺跡

イカリイセキ 宇賀野

種別：集落跡 時代：古墳～奈良 立地：平地 現状：工場地・水田

概要：第1次～第3次発掘調査によって、古墳時代前期と奈良時代の集落遺跡が確認されている。東端は狐塚遺跡と接している。

93 五反田遺跡

ゴタンダイセキ 宇賀野

種別：集落跡 時代：弥生～古墳 立地：平地 現状：水田

概要：遺物の散布が確認されている。

94 墓町遺跡

ハカマチイセキ 宇賀野

種別：古墳 時代：古墳 立地：平地 現状：水田

概要：円墳と推定されており、土師器の出土が認められている。

95 塚町遺跡

ツカマチイセキ 宇賀野

種別：古墳 時代：古墳 立地：平地 現状：社地・寺地

概要：円墳と推定されている。

96 宇賀野墓町遺跡

ウカノハカマチイセキ 宇賀野

種別：集落跡 時代：弥生 立地：平地 現状：宅地・水田

概要：第1次発掘調査によって弥生時代中期の集落遺構が確認されている。

97 歓喜光寺遺跡

カンキコウジイセキ 宇賀野

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：寺地・宅地

概要：寺院推定地。礎石があり、須恵器の出土が確認されている。

98 金光寺遺跡

コンコウジイセキ 飯

種別：寺院跡 時代：平安 立地：平地 現状：水田

概要：遺物散布の認められる寺院推定地。立会調査されているが、遺跡の詳細は不明。

99 若宮城遺跡

ワカミヤジョウイセキ 飯

種別：城跡 時代：その他 立地：平地 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。既存集落と重なりをもつ。

100 出原遺跡

デハライセキ 飯

種別：散布地 時代：その他 立地：平地 現状：宅地・水田

概要：遺物散布が認められているが、調査例がなく、遺跡の詳細は不明。

101 飯村館遺跡

イムラヤカタイセキ 飯

種別：城跡 時代：中世 立地：平地 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。既存集落と重なりをもつ。

102 飯村城遺跡

イムラジョウイセキ 飯

種別：城跡 時代：その他 立地：平地 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。既存集落と重なりをもつ。

103 普明庵遺跡

フミョウアンイセキ 飯

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：水田

概要：広範囲に瓦の散布が認められる寺院推定地。

104 正恩寺遺跡

ショウオンジイセキ 飯

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：水田

概要：沖積低地の下に埋もれる寺院跡。出土する軒丸瓦は、天野川流域の山東町法泉寺遺跡・米原町三大寺遺跡の出土瓦と同範。

105 地藏堂遺跡

ジゾウドウイセキ 飯

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：水田

概要：広範囲に瓦の散布が認められる寺院推定地。奈良時代の掘立柱建物も確認されている。

106 世継館遺跡

ヨツギヤカタイセキ 世継

種別：館跡 時代：その他 立地：平地 現状：宅地

概要：中世城郭関連遺跡。既存宅地と重なりをもつ。

107 世継遺跡

ヨツギイセキ 世継

種別：集落跡 時代：縄文～鎌倉 立地：平地 現状：宅地・水田・畑地

概要：複合遺跡。第1次発掘調査では、古墳時代前期の集落遺構が確認されている。

108 世継寺遺跡

ヨツギデライセキ 世継

種別：寺院跡 時代：その他 立地：平地 現状：水田

第4章 ま と め

本書では、平成7年度から平成11年度までの5年間に実施した国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」の報告をおこなった。

近江町では、平成2年より国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」を開始しており、今回の報告で10年の節目を迎えることとなった。公共事業や民間開発にともなう発掘調査が、大規模なものであるのに対し、当事業は大変小規模な調査行為と映りがちである。しかしながら、その実態は、それぞれの遺跡について詳細なデータを拾いあげている。

なかでも、町内に108箇所周知されている埋蔵文化財包蔵地については、その実際の範囲をつきとめる上で有効な調査が展開されており、5年前の報告時に比べて、格段に正確な遺跡範囲を示せるようになってきている。そこで今回の調査報告では、2001年（平成13年）3月末現在における遺跡範囲を縮尺1万分の1の付図として記すこととした。遺跡の周知範囲を明確にし、個々の性格を明らかにすることが、今後の課題である。

文末になったが、滋賀県教育委員会文化部文化財保護課をはじめ、日頃より近江町の埋蔵文化財に御協力をいただいている方々に謝意を表する次第である。

報告書抄録

ふりがな	おうみちようまいぞうふんかざいちようさしゅうほう							
書名	近江町埋蔵文化財調査集報 3							
副書名	町内遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	近江町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第21集							
編著者名	宮崎幹也							
編集機関	近江町教育委員会							
所在地	〒521-0072 滋賀県坂田郡近江町顔戸488-3 ☎0749-52-3111							
発行年月日	西暦2001年3月30日							
ふりがな 収録遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
ちやもんじいせき 長門寺遺跡 ほか	しがけんさかたぐん 滋賀県坂田郡 おうみちようごうど 近江町顔戸	254649		35° 20' 30"	136° 17' 45"	19950701 ~ 20010330	計3,000㎡	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
長門寺遺跡 ほか	集落跡 寺院跡	弥生時代 古墳時代 中世		溝 土壇		弥生土器 須恵器 陶器		

図 版



法勝寺遺跡第8次発掘調査現況



法勝寺遺跡第8次発掘調査検出遺構



辻ノ前遺跡範囲確認調査現況



辻ノ前遺跡範囲確認調査検出遺構



奥松戸遺跡第3次発掘調査調査風景



奥松戸遺跡第3次発掘調査調査風景



奥松戸遺跡第3次発掘調査基準点測量



奥松戸遺跡第3次発掘調査検出遺構



寺倉遺跡範囲確認調査検出遺構



黒田遺跡試掘調査（その4）調査トレンチ



黒田遺跡試掘調査（その４）調査風景



黒田遺跡試掘調査（その４）検出遺構



稗田遺跡試掘調査（その3）調査風景



稗田遺跡試掘調査（その3）検出遺構



碓遺跡範囲確認調査風景



碓遺跡範囲確認調査検出遺構

近江町文化財調査報告書第21集
近江町埋蔵文化財調査集報 3
—町内遺跡発掘調査報告書—

2001年 3 月

編集・発行 近江町教育委員会

〒521-0072 滋賀県坂田郡近江町顔戸488-3

☎0749-52-3111

印刷 有限会社 真陽社